

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200074		
法人名	社会福祉法人 姫戸福祉会		
事業所名	グループホームひめど		
所在地	上天草市姫戸町姫浦2544-6		
自己評価作成日	平成23年1月27日	評価結果市町村受理日	平成23年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4371200074&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成23年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは地域の中心にあり、中学校、商店、郵便局、美容室、市役所の支所等が近隣にあり、散歩中などは、気軽に近隣の方から声を掛けていただき、また、買い物や散髪なども手近に済ませることが出来る。医療面でも階下が医院であり、主治医とも密に連携が行える。運営面ではISOの認証を取得しており、接遇についても年2回講師を招いて研修を行い、継続的にサービスの改善、向上に取り組んでいる。建物内の環境についても、明るさと清潔さを心がけ、居心地の良い空間となるよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員間の情報共有が徹底している。食事・入浴・医療など、利用者ひとり一人24時間の生活を、担当者が交代や引き継ぎを行う場合にも、スムーズな支援が出来るようシステム・細分化されており、利用者のニーズを把握する努力をしている。声掛けから始まる一日の流れを詳しく記入した「介護の手順書」で統一を図り、職員との会話を通して利用者の満足度の高さが感じられた。オールマイティーをめざす職員を育てることを目指し、職員が遣り甲斐を持って働ける職場として、母体法人姫戸福祉会との連携が取られている。町の中心に位置し、社会的交流にも地の利を活かすことが出来、階下の姫戸医院との連携も密で、24時間ドクターと連絡が取れる安心の見守りがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム設立時にケアの指針となる理念を職員皆で作成し、また、平成19年にも、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念について考え追加した。それは、業務中にも常に目に入るように、掲示している。	利用者は家族と共に常に職員に対して感謝の念を持ち、職員もそれに応えている日常があり、「助け愛」「励まし愛」「微笑み愛」の理念に裏打ちされたケアがある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区老人会や小学校との交流、中学校の職場体験、高校生の実習受け入れなど行い、また、日常的に外出を行い、地域の方との交流に努めている。職員も地区消防団や婦人会活動、学校行事、地区行事などへの参加協力を行っている	中・高校生、特養ユニット型の職員、障害者就労支援生、職員の子供等、幅広い人材の実習生を受け入れることで事業所のことを地域に知ってもらうきっかけとなり、地域とのつきあいに繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ認知症の普及活動として「認知症サポーター養成講座」の講師をするなど協力を行っている。また、地区の中学校の職場体験受け入れや高校の福祉課の実習受け入れ等も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状態報告や行事等の日常の活動報告また、GHの事業計画やその事業の自己評価について報告・説明を行ない、意見・要望・助言等を頂いている。そのことについては必要に応じて、ミーティングで話し合い改善を行っている。	運営推進会議ではまず利用者の現状報告・活動報告、今後の行事予定等の説明、情報交換等を行っている。認知症対応型のデイサービスをグループホーム内に設立することや、ショートステイ対応について意見交換しており、設置について前向きな意見が出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市役所の地域密着サービス担当職員の方の出席をいただいている。また、成年後見制度など必要に応じて、市の地域包括支援センターの職員の方とも相談や連携を行っている。	地域包括支援センターとの交流では、新たな利用者の受け入れや対応の相談などに適切なアドバイスを受けている。成年後見制度を専門家に学び、理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメントについて法人全体で勉強会を行い、その中で、身体拘束とリスクマネジメントとの関係性についても学び、また、入居者様各個人ごとの介護手順書を作成し、適切なケアが行えるよう取り組んでいる。	エレベーターと階段と、出入りは2通りあり、不審者の侵入他、安全面・防災上の対策として、それぞれ異なるセンサー音でのチャイムが鳴り、明確な対応が出来る仕組みとなっている。一人ひとり違う対応と介護のあり方について、個別の介護手順書を作成し、拘束のないケアの取組みが実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する外部研修会参加や内部研修会で学ぶ機会を設け、職員の理解と周知、虐待を行わないケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修会への参加や内部研修を行っている。また、入居者様について必要性をご家族や地域包括支援センターなどと話し合い、活用できるよう支援を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族へ時間をとっていただき、契約内容や解約の場合について、十分な説明を行なうようにしている。また、不安や疑問点がないか尋ねるようにしている。改定の際は、家族説明会を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	4月、9月、12月にご家族が集う場を設け、また、2ヶ月毎の運営推進会議に参加いただき、事業計画の説明や意見・要望等をうかがう機会とした。そこでいただいた内容については、ミーティングで検討を行い改善に活かすようにしている。	家族の面会時には日頃の生活の様子を報告し、利用者に関する相談や希望など、要望に対応している。新規の利用者を受け入れる際は、家族の意見・要望を出し易い話し合いの場を設け、利用者の性格・特技などの情報収集に努め、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の「職員満足度調査」と半期ごとの個人面談、毎月のミーティング等を通して意見や提案を聞く機会とし、職員全体会議や主任者会議で検討を行う等している。	個人面談で出にくい意見については「職員満足度調査」を無記名で年2回実施し、半期ごとの個人面談や毎月のミーティングで積極的な職員からの意見を引き出している。また、ミニカンファレンスでは利用者の情報を共有し、介護の統一化を重視しており、引き継ぎ事項のメモ書きは、日勤から夜勤へ申し送られ、詳細なケアに活用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課により評価を行い、また、その時の面談により、各職員の聞き取り等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の人事考課や面談等を通してケアや力量について把握を行い、勤続年数や能力に応じた研修計画を立て参加支援や、資格取得に向けての金銭面や図書の購入などのバックアップも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている。	市内の居宅介護事業所協議会やグループホーム協会への入会を通して勉強会や交流の機会を設け、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されて間もない時期は、職員側から気がかけて話しかけるようにし、不安や要望等の聞き取りを行い、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居のサービス説明時や契約・アセスメント・プラン作成を行うときなどに、ゆっくり話を聞かせていただくようにし、入居後も様子報告等を行いながら、信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の説明時、契約時、アセスメントや計画作成時に話をよく聞き必要なサービスを見極めるようにしている。アセスメント様式は2種類以上使用し必要な支援の掘り起こしに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来ることに応じて、日常の役割として洗濯物干し・たたみ、料理や買い物等を手伝っていただいている。また、食事についても、一緒に献立を考えたり、作り方を教えていただきながら調理している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日々の様子を面会時や電話・広報紙などで伝え、その上で、ご家族の意向等を伺いながら外出や外泊、行事への参加など一緒に過ごせる時間を作っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの美容室や馴染みの知人宅へ一緒に行ったり、地区老人会の訪問等交流支援に努めている。	美容室等利用時には職員が同行しており、利用者の出身地から老人会の訪問を受けた際には「〇年ぶりにあったねー」と感激の対面シーンも見られ、馴染みの人たちとの交流支援に繋がって、積極的な係わり作りの機会を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性についての情報は、職員間で共有できるようにしている。その上で、座る場所等にも配慮しながら楽しく過ごしていただけるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られたり、在宅生活に戻られた方については、今までの暮らしぶりや支援内容、注意点について細かいことなども情報提供し、必要に応じたフォローを行うよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話や相談等から把握したり、時には直接尋ねたりしている。ご家族からも話をうかがうなどして意向の把握に努めている。	職員は利用者の趣味や特技を引き出したり、体験談や苦労話等の聞き役として大きな役割を認識しており、利用者の満足度を高める努力が行われている。夜間1対1の対応では家族的な一面に触れる事もあり、職員の遣り甲斐に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のかかわりの中での会話や、ご家族や関係者から話を聞く等して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子や活動内容については、その都度記録に残すようにし、申し送り事項はわかりやすいよう別途記録し、口頭でも引継ぎを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成時にはご本人やご家族に意見を伺うようにしている。また、担当職員と計画作成担当者は定期的にモニタリングを行い、必要に応じてカンファレンスを行い日々のケアに活かすようにしている。	担当職員は利用者を深く観察し、介護計画書作成に対応し、毎日のサービスチェック表や評価を入念に行っている。利用者が今何を求め、どのような対応を望んでいるのか、ニーズに添った支援に努められている。勤務交代に際しては情報を引き継ぎ共有化に努力し、利用者が「安心の暮らしが出来るよう」対応されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録システムで個別の記録を行い、データを活用し、情報を共有している。また、ケアチェック表を用いてサービス内容や状態の評価を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出、帰省の送迎を行ったり、誕生会等の個別の行事ではご家族の都合に合わせてたりと柔軟性を持たせるようにしている。また、新たなニーズが発生した場合は職員、管理者、代表者等と検討を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の老人会、婦人会、民生委員の方々に参加していただいていることで、老人会や小学校との交流ができています。また、美容室や商店など個人の行きつけも把握し利用を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望により、通常は階下の医院を受診されているが、専門病院の受診が必要となった場合は、ご家族と連携し、受診できるよう支援している。	病院の受診は家族任せとせず、必ず職員が同行して、「受診申し送り一覧」にドクターの指示を記録し、ホームでの日常生活支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	階下が病院であり、日頃のささやかな体調の変化や不調についてすぐに相談できる体制にある。また、休診日にも、主治医へ携帯で連絡がとれ指示を仰ぐことが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関を定め、入院や緊急時の受け入れをしていただいている。入院された場合は、病院への面会を行うと共に関係者とも連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度となられた場合や医療が必要となられた場合については、入居契約時にできることとできないことについて説明を行なっている。また、そのような状態になられた場合にも、再度ご家族と相談し、関係機関へつなぐ等している。	重度化や、終末期については、入所の際に3週間以上の入院となった場合は、退所になる旨の説明を実施。病状が進み、体調の変化で医療機関への入院となった際は家族に、主治医と職員からの意見を聴いてもらい、ターミナルケアの意思決定をもらった上で、状況に合わせた対応を決めている。家族の協力を得て看取りを実践した事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署の協力を得て救急救命訓練を行っている。また、緊急時のマニュアルを整備し、急変や事故発生に備えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得て、階下の医院と合同で避難訓練を行っている。また、年4回の自主訓練を行うようにしている。男性職員は地区消防団に入り、災害時は地域と協力して駆けつけるようにしている。	消火器は廊下やリビング等の目につく場所に設置し、自動通報装置やスプリンクラーも完備して、初期消火通報をシステム化している。尚、男性職員は地区の消防団に参加しており、地域との協力体制が構築され、安心の連携が取れている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業計画に尊厳の保持について盛り込み、実践するように取り組んでいる。また、年2回接遇講師を招いて接遇についての勉強会を行い、言葉遣いや態度について振り返る機会としている。	接遇研修の他、年1回職員研修で入浴や外出等の場面を設定して、言葉かけや態度のロールプレー大会を実施し、ケアのステップアップに繋げている。クレームに対しては不適合サービスとして、経過を見ながら是正処置報告書に記録し、職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の気持ちを表しやすいよう、職員からの声掛けを積極的に行い、ゆっくりと話を聞くように心掛けている。また、選択食など自分で選べる場面等を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常会話の途中で把握した個別の希望、外出ややりたいこと等はなるべくその日のうちに行うように心掛けているが出来ない場合は、いつ出来るかを説明するようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生会や敬老会は数日前から当日着る服を、ご本人やご家族と相談し準備し、当日は記念撮影を行っている。洋服も外出や行事のときに着るものはクリーニングに出したり、洗濯を丁寧にするなど、おしゃれ着として扱っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日食べたいものの聞き取りや、一緒に献立を考えたりしている。調理については、その方の力に応じて下ごしらえ、味付け、盛り付けの支援を行っている。また、一人ひとりの嗜好を把握している。	「食事介護手順書」に従い、声掛け～リビング移動～手洗い・うがい・嚥下体操などの身仕度～配膳～食事～歯磨き等、詳細に作成し支援している。訪問時の昼食は調理師の資格を持つ利用者が味付けに活躍し、獲れたての新鮮な魚料理に「美味しいー、幸せー」の言葉が聞かれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎食確認を行い記録している。食事量が少ないときには申し送りを行い状態を把握するように努めている。また、咀嚼や嚥下が困難な方にはおかゆや、刻み、水分にトロミをつけたりと食べやすい工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりを洗面所へ誘導し、口腔ケアの支援を行っている。自分でできない方へは職員が介助を行ない、また、夜間はいれば洗浄液で洗浄除菌を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録システムで入居者様個々人の排泄の状態や間隔を把握するようにし、必要に応じて誘導や介助等を行っている。排泄用品もその日の状態や、昼夜、季節により柔軟に変更している。	介護度が異なり排泄状況が異なる利用者により、それぞれの「介護手順書」を作成し、記録を見ると、いつ誰が対応しても同様の対応ができるような仕組みが作られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防への取り組みとして、朝食にヨーグルトやヤクルト、果物を取り入れたり、毎食の食事に繊維の多い野菜を取り入れたり食事の工夫に力を入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望がある場合はなるべくその日に入っていただけるようにしている。入浴拒否が強い方へも、言葉掛けの工夫や仲の良い方と一緒に入っていただくなど工夫を行っている。また、ゆず湯や菖蒲湯など楽しみへの支援も行っている。	毎日の入浴時間帯は希望に沿った対応で、入浴への気持ちが高まらない人へは無理強いせず改めたタイミングを見るなどしており、自力入浴可能な利用者には世間話をしながら見守る等、個別対応の「入浴介護手順書」が作成されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングでくつろいでいただけるよう、ソファを配置したり環境の整備を行っている。夜間は空調にも気を配り、寝具も清潔な心がけ、気持ちよく眠っていただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の情報提供表を個人ごとにファイルし全職員が把握できるようにしている。また、受診時の内容についても個人ごとにファイルし、状態や薬剤の変更等が随時把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	梅干・ラッキョウ漬け・干し柿作り、つわや唐芋のつら剥きなど、季節ごとの作業の場を作ることで経験や知恵を活かした、懐かしさや楽しみを得ていただけるよう支援している。また、外出や趣味活動への支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に応じて、散歩や買い物、外食等へ出掛けている。また、季節に応じて花見や紅葉を観に出掛けたり神社やお寺へお参りに出掛けたりしている。時にはご家族と一緒に掛ける事もある。	街の中心地にあり、天気の良い日の散歩や買物の際は、意識して顔なじみのご近所同志との会話を心掛けており、漫然と散歩をするのではなく、近隣・馴染みの人との交流を目的としている。要望に応じてドライブや外食に同行するなど、利用者の気分転換が支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご本人・ご家族と相談し、所持されている方、事業所が管理をし、外出時に手渡す方など一人ひとりに応じた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話機の子機を利用して、電話の取り継ぎや掛けること、手紙のやり取りの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を飾ったり、本や雑誌・アルバム等を置き、季節感や生活感を出すようにしている。また、掃除チェック表で清潔や整理整頓を心がけ、室温にも配慮するようにしている。テレビは必要ないときは消すようにしている。	リビング入り口には仏壇が設置され、利用者が活けた生花を飾るなど心の安らぎのスペースとなっており、採光や室温管理に心掛け、清潔な生活環境を整えている。職員の清掃が徹底しており、夜勤明け者がトイレ掃除を済ませ、毎朝の10分間掃除を、マニュアルに添って徹底して実施しており、入居者にとっても訪問者や職員にとっても、居心地の良い居住空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置いたり、談話コーナーを設けたり、一人で過ごしたり、気の合う人と話ができる場所がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、思い出の品等を持ってきていただいている。持込品が少ない方へは、日々の写真を飾ったり、ご本人と相談し工夫するようにしている。	各人の目印となる「のれん」が部屋の入り口に掛けられ、医院の入院室を改装した居室は、ゆとりある広さで、それぞれに持ち込んだ家具を配置し、自分が専有するスペースとしての意識も高く、居心地良い場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせて、手すりの設置や居室の模様替えをおこなっている。また、トイレや自室がわかりやすいよう、表示したり暖簾を掛けたり工夫している。		